



平成 31 年 2 月 1 日

各 位

会社名 カネヨウ株式会社
代表者名 代表取締役社長 西野 幸信
(コード番号 3209 東証第二部)
問合せ先 取締役 保坂 和孝
(TEL06-6243-6500)

事業の現状、今後の展開等について

当社株式は、平成 30 年 12 月末において時価総額が 10 億円未満となり、株式会社東京証券取引所の上場廃止基準（上場時価総額）にかかる猶予期間に入りました。

これを受けて当社は、事業の現状及び今後の展開等について、下記の通り東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第 601 条第 1 項第 4 号 a 本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、本年 9 月 30 日までの何れかの月において、月間平均時価総額及び月末時価総額が 10 億円以上になった場合は、上記の上場廃止基準に該当しないことになります。

株主の皆様をはじめ関係者の皆様には、大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 事業の現状について

(1) 経営の基本方針

当社は、「健康と豊かさを求めて」を企業理念として、「健康・快適・環境」をテーマとする生活関連専門商社として社会に貢献する企業を目指しております。また、新中期 3 ヵ年計画（2018 年 4 月から 2021 年 3 月末まで）をスタートさせ、基本方針として収益基盤の拡大、財務体質の強化、早期復配の実現の 3 つを経営目標として掲げております。

(2) 当社事業の現状

主な事業内容は以下の通りであります。

① 寝装用原料事業

世界各国にサプライソースを持ち、高品質の原料（羽毛、羊毛、獣毛、合繊等）を国内のお取引先様へ安定的に提供しております。特に、羽毛原料においては、欧州の生産農家や自治体との連携を強化することでトレーサビリティを確保し、良質且つ安心・安全な羽毛を提供しております。

当社が得意とするホワイトコウダ種は、ポーランドにて品種改良されたホワイトグース種（鶩鳥）の一種で、世界的にも最高品質の羽毛と言われており、ポーランドでは、ホワイトコウダ種のグースが唯一の公認グースとされており、国を挙げた生産管理、品質管理が行われております。

また、大手国内繊維メーカーと共同開発した「デオパワーダウン」（英語表記名 DeoPower®dw）は当社の自社ブランドであり、消臭・防臭・抗菌効果により、羽毛特有の臭いの発生や細菌の増殖を抑制する高品質ダウンとしてご好評頂いております。

② 寝装・リビングインテリア事業

寝装事業では、世界各国から調達した良質な羽毛原料を用い、信頼のおける国内メーカーで高品質な羽毛布団を一つ一つ丁寧に製造しております。また、国内外の協力工場では、機能性素材を用いたマットレス等の寝具、枕やガーゼケット等、高品質で安心・安全な寝装品を製造し、消費者様の健康で豊かな生活のサポートに努めております。

また、当社は大手ホテルチェーンと機能性枕を共同開発し、同ホテルチェーンに納入しており、宿泊されたお客様からたくさんのご評価を頂いております。

リビングインテリア事業では、洗練されたデザインと品質を追求したベルギー製カーペットをはじめ、欧州各国からインテリア製品の輸入を行っております。

また、国内メーカーと共同で、抗菌・抗ダニ・抗ウイルス加工のカーペットやラグ等の開発も手掛けております。E コマースを得意とするお取引様への販売等、販売チャネルの多様化や、ルームデコレーションへの関心の高まりを受け、伝統的なものからカジュアルなものまで、幅広いアイテムの取扱いを行っております。

③ 輸出用原料・テキスタイル事業

日本から中近東諸国向けに、現地の人々が日常着用している民族衣装用のテキスタイル（トープ）を輸出、また東南アジアから中近東諸国向けに同商品の三国間貿易も行っております。中近東諸国の気候や文化から、域内での民族衣装の着用率は非常に高く、中でも日本製のトープを用いた衣装は、発色性、風合い等の面から他国製品の追随を許さない知名度と地位を誇っております。

また、欧米諸国の有名アパレルメーカー向けにテキスタイルの輸出を行っており、当社ミラノ店の機能を活かし、お取引様が必要とするハイセンスで高品質な商品を Just in time で提供する体制を整えております。

今後は機能性素材のライセンサーであるメリットを活かし、寝装・リビングインテリア事業部門との協業等、社内シナジーの深化も進めてまいります。

(3) 業績の推移及び概況

① 業績の推移

単位：百万円

決算期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高	9,604	8,890	11,019
営業利益	44	160	217
経常利益	11	126	195
当期純利益	10	144	213
純資産額	1,042	1,203	1,306
総資産額	4,981	4,571	5,553
営業活動によるキャッシュフロー	533	325	762
投資活動によるキャッシュフロー	67	59	△1,044
財務活動によるキャッシュフロー	△276	△537	414

② 業績の概況

当社は2010年3月期以降、安定的に利益を計上し、2017年3月期には懸案であった繰越欠損金を解消することが出来ました。また、2017年10月には事業統合により輸出を中心とした組織（輸出用原料・テキスタイル事業）を迎え入れ、従前に比べ収益構造も改善が図れましたので、今期以降も安定的に収益を確保する見込みであります。

2. 今後の展開について

2018年5月11日に2021年3月期を最終年度とする「新中期3ヵ年計画」

(http://www.kaneyo-net.co.jp/ir/houkoku/new3y_2018.05.11.pdf)を發表しております。計画の骨子としては、収益基盤の拡大と強化、安定した財務体質の維持、早期復配の実現の3つを基本方針とし、最終年度となる2021年3月期の絵姿として、定量面では経常利益300百万円超の企業への成長、定性面では継続的かつ安定的な配当の早期実現を目標に掲げております。当社はこの3ヵ年計画を変更せず、計画の達成に向けて一つ一つ課題をクリアしていく所存です。

(1) 計画の進捗状況

単位：百万円

	2019年3月期見通し	2021年3月期目標
売上高	14,000	-
営業利益	180	
経常利益	190	300
当期純利益	130	-

(2) 事業別取組方針の進捗状況

① 寝装用原料事業

羽毛原料は仕入先との信頼関係構築、ブランド化が進み、トレーサビリティ、品質面で市場の信頼を獲得し、順調に取引数量を伸ばしております。

② 寝装・リビングインテリア事業

寝装業界向けに、当社が得意とするムートンやシルク素材の高価格帯商品の供給が軌道に乗りつつあります。また機能性に優れたガーゼ素材や耐圧分散に優れた寝具素材の供給が順調に伸びてきております。

IoT 寝具や介護分野への提案、海外市場への輸出取引開始には時間を要しておりますが、継続課題として取り組んでまいります。

インテリア分野では人気キャラクターの使用権を取得し、子供用寝具の販売強化を進めております。

③ 輸出用原料・テキスタイル事業

事業の多角化を目指し、中近東諸国の民族衣装着用時に使用する装身具用の素材提案を行っております。また中近東諸国の民族衣装用途に加え、日本製の高級シャツ地を海外のオーダーメイドシャツ店向けに販売活動を行っております。

また、日欧 EPA が発効することを受け、得意とする欧州市場向けテキスタイルの販売を深化させてまいります。

快適素材の特許を持つ海外メーカーと新たに使用許諾契約を締結しましたので、産業資材や衣料分野で知見のある機能性素材の販売手法を寝装分野へ適用し、素材から製品までサプライチェーンを通し、当社企業理念に掲げている「健康と豊かさ」を追究してまいります。

3. 今後の見通しおよび上場維持について

当事業年度の業績予想は、売上高 14,000 百万円、営業利益 180 百万円、経常利益 190 百万円、当期純利益 130 百万円を見込んでおります。

売上高は当初予想水準並みを維持する見込みではありますが、原料価格や物流コストの高騰等から売上総利益が伸び悩むなか、基幹システムを刷新したことや、組織の拡大に伴う管理費等の支出が先行し、前年対比増収減益となる見込みです。

然しながら、着実に利益を積み上げていく流れに変わりはなく、財務体質の強化を進展させ、早期復配に向けた布石を打つ事が出来つつあると確信しております。

今後は、株主をはじめステークホルダーの皆さまからの信頼回復に努め、可及的速やかに当社株式の月間平均時価総額および月末時価総額を高め、東京証券取引所の定める基準を上回ることで、引き続き上場を維持出来るように努めてまいります。

以上